

OUCH!

今月のトピック...

- ・ オートコンプリート
- ・ メールの返信
- ・ メーリングリスト
- ・ 感情とプライバシー

メールのすべきこととすべきではないこと

はじめに

メールは、仕事およびプライベートにおい連絡手段として広く使われています。しかし、メールを不用意に利用すると、自分で自分の首を絞めかねません。このニュースレターでは、メールを利用するにあたり一般的な注意点について解説するとともに、日々の生活の中でこれらを防ぐ方法も解説します。

ゲストエディター

ロバート・M・リー氏は Dragos社の創立者であり、現CEOです。彼は、SANS Instituteの認定講師でもあり、FOR578 - Cyber Threat Intelligence や ICS515 - ICS/SCADA Active Defense and Incident Responseコースの著者でもあります。また、ツイッター (@RobertMLee) でも情報を発信しています。

オートコンプリート

オートコンプリートは多くのメールクライアントソフトウェアに搭載されている機能です。メールを送信したい人の名前を打ち込む際に、メールソフトが自動的にその人のメールアドレスを選択してくれます。こうすることで、連絡したい人のメールアドレスを全て記憶する必要は無く、名前だけを覚えていれば良いこととなります。しかし、オートコンプリートは、似たような名前の人が複数いる場合、オートコンプリートの機能が間違ったアドレスを選択してしまう可能性があります。例えば、自社の財務情報を会計部門にいる同僚である「FRED SMITH」に送りたいとします。オートコンプリート機能によって近所に住んでいる「FRED JOHNSON」のアドレスを選択された場合、結果として、機密な情報が漏えいしてしまうこととなります。このような事を防ぐためには、メールを送信する「前」に名前とメールアドレスを確認してください。

メールの返信

多くのメールクライアントには、宛先を選択をする際、To: のほかに Cc: と Bcc を設定することができます。「Cc」は、「CARBON COPY(カーボンコピー)」の略で、宛先の人に対しメールの内容だけでも把握して欲しい時に活用します。「Bcc」は、「BLIND CARBON COPY(ブラインドカーボンコピー)」の略で、Ccと似ていますが、他の受信者にBccで指定したアドレスは見ることはできません。これらのオプションを利用するにあたって問題が起きることがあります。Cc で受信したメールを受信した場合、返信する際に送信者のみに返信をするのか、Ccされた全てのアドレスに対し返信をするのか選択する必要があります。返信内容に機密事項が含まれる場合は、送信者のみに返信するのが良いでしょう。この場合は、すべての宛先を含める機能である、「すべてに返信」を使用しないでください。Bccの場合、別の問題が起きます。機密事項を含んだ内容のメールを送る際、誰にも知られずに上司を Bccに加えておきたい場合があります。しかし、その上司が、そのメールに返信する際、「すべてに返信」を使用した場合、受信者全てに元メールを内緒で上司に

メールのすべきこととすべきではないこと

Bccで送信したことが発覚してしまいます。メールを Bcc で受信した場合は、すべてに返信を使用せず、送信者のみに返信を送るようにしてください。

メーリングリスト

メーリングリストは、複数のアドレスを一つの名前で表すものです。この名前は、メールリストまたはグループ名と呼ばれたりもします。例えば、GROUP@EXAMPLE.COM というアドレスでメーリングリストがあるとします。このアドレス宛にメールを送った場合、そのグループに登録されている全てのアドレス宛にメールが送信されます。この際、数百または数千もの人にメールが送信されることもあります。このようにメーリングリスト宛にメールを送付する際は、たくさんの人が受信するため、十分に気を付けてください。また、メーリングリスト宛のメールに返信する際にも気を付けなければなりません。送信者のみに対し返信を送りたい場合でも、メーリングリストは自動的に全員を含んでしまうことがあります。つまり、プライベートな内容のメールが数百または数千人によって読まれてしまう

こととなります。また、オートコンプリートがメーリングリストを選択してしまう危険性もあります。あるメールを特定の人、例えば同僚の CARLさん CARL@EXAMPLE.COM にメールを送りたいのにオートコンプリートによって車に関するメーリングリスト CARS@EXAMPLE.COM に誤送してしまう可能性があります。

感情

感情が高ぶっている時にメールは絶対に送信しないでください。感情的になっている際に送信したメールは、後で何かの問題になったりすることがあります。例えば、友人を失ったり、仕事を失ったりしてしまう可能性があります。一度落ち着いて、考えをまとめてください。どうしても欲求不満を発散させたい場合は、MICROSOFT WORD またはテキストエディタを開いて、感情のままに言いたいことを書いてみてください。書き終わったら、コンピュータの前から離れ、コーヒーを作って飲む、または散歩してきてください。戻ったら、メッセージを削除し、もう一度、一から書き直してください。もっと良いのは、電話で相手と話をするか、実際に会って話をすることです。メールから口調や意図を汲み取ることが難しい場合があり、それらを正確に伝えたい場合は、電話または実際に会って伝えるのが良いでしょう。

プライバシー

最後に覚えておかなければならないことは、メールにはプライバシー保護があまりなく、入手された場合は、内容がすべて読まれてしまうということです。メールをハガキと似ているものと考えてください。また、メールを送信した後



メールの利用を不用意に行なうと、自分で自分の首を絞めかねません。送信ボタンを押す前に、落ち着いて、どのような内容を誰宛に送っているか再確認してください。

メールのすべきこととすべきではないこと

は、コントロールができないだけでなく、取り返すこともできません。送ったメールは、簡単に転送されたり、掲示板に公開されたり、令状によって公表されたり、サーバが攻撃を受けたことによって漏えいしてしまったりすることがあります。プライベートな内容を誰かに伝えたい場合は、電話を使ってください。覚えておかなければならない重要なことですが、多くの国でメールは裁判所に提出する証拠として使えるということです。最後に、会社で支給されたコンピュータからメールを送信している場合は、会社が送り出すメールに関して監査したり、内容を読んだりすることもできる権利を持っていることが多いということに気を付けなければなりません。会社におけるメールのプライバシーについて疑問がある場合は、上司に相談してみてください。

詳しくは

毎月発行のセキュリティウェアネスニュースレター「OUCH!」をご活用ください。また、OUCH!のアーカイブで過去のトピックも参照できます。詳しくは、SANSセキュリティウェアネスソリューションのサイトをご覧ください。
securingthehuman.sans.org/ouch/archives

日本語版翻訳チーム

日本語版翻訳 - NRIセキュアテクノロジーズ株式会社

NRI セキュアテクノロジーズは、国内最大の情報セキュリティ専門企業です。マネージドセキュリティサービス、コンサルティング、ソフトウェアソリューションの提供を通じて、情報セキュリティのあらゆる視点からお客をサポートします。 <http://www.nri-secure.co.jp>

リソース

- フィッシングについて: <https://securingthehuman.sans.org/ouch/2015#december2015>
- Little Bobby Comics: <http://www.littlebobbycomic.com/projects/week-52/>
- Daily Security Tips: <https://www.sans.org/tip-of-the-day>

OUCH!はSANS Securing The Human プログラムによって発行され、[Creative Commons BY-NC-ND 4.0 license](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/)に従って配布されます。このニュースレターを再配布し、もしくは啓発資料としてご利用いただけますが、コンテンツの改変は認められません。翻訳その他に関しては、ouch@securingthehuman.org までお問合せください

Editorial Board: Bill Wyman, Walt Scrivens, Phil Hoffman, Bob Rudis, Cheryl Conley

Translated By: 内山 貴之, 時田 剛



securingthehuman.sans.org/blog



[/securethehuman](https://www.facebook.com/securethehuman)



[@securethehuman](https://twitter.com/securethehuman)



[securingthehuman.sans.org/gplus](https://plus.google.com/100000000000000000000)